

主題研究

# 学校生活への適応と主体的な選択を促す 中学校学級活動の進め方に関する研究 - ガイダンスの機能を生かした指導計画の作成をとおして -

（第1報）

教科領域教育室 藤原良治

研究協力校

花巻市立湯口中学校

## 研究の概要

この研究は、ガイダンスの機能を生かした指導計画の作成をとおして、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方を明らかにし、中学校における学級活動の指導の改善に役立てようとするものである。

2年次研究の第1年次である本年度は、次の成果を得た。

中学校学級活動の指導の進め方についての基本的な考え方を明らかにし、基本構想の立案並びに推進試案の作成を行うことができた。そして、その中で明らかになった、ガイダンスの機能を生かす場面や、機能を充実させるための工夫、学級活動の題材とのかかわりに着目し、3年間の系統性・発展性に配慮した指導計画案を作成することができた。

キーワード：特別活動 中学校学級活動 学校生活への適応 主体的な選択  
ガイダンスの機能

## 目 次

研究目的	65
研究仮説	65
学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する基本構想	65
1 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する基本的な考え方	65
2 ガイダンスの機能を生かした指導計画を作成することについての基本的な考え方	66
3 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する基本構想図	67
学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する推進試案	68
1 推進試案の作成	68
2 推進試案	69
ガイダンスの機能を生かした指導計画の作成	70
1 ガイダンスの機能を生かした3年間の学級活動の指導計画	70
2 ガイダンスの機能を生かした各学年の学級活動の指導計画	71
研究のまとめ	74
1 研究の成果	74
2 今後の課題	74

### 【参考文献】

## 研究目的

学習指導要領第1章総則において、新たに「生徒が学校や学級での生活によりよく適応するとともに、現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、ガイダンスの機能の充実を図ること」が示された。これを受けて、第4章特別活動において「学校生活への適応や人間関係の形成、選択教科や進路の選択などの指導に当たっては、ガイダンスの機能を充実するよう学級活動等の指導を工夫すること」が求められている。

しかし、これまでもガイダンスの機能を生かした指導が展開されてはきたものの、意図的、計画的に行われることが少なく、学校生活に十分適応できずに人間関係にかかわる問題を抱える生徒や、学習における選択に当たって目的意識をもてず適切に対応できない生徒も見られる。

このような状況を改善するためには、特別活動の学級活動における生徒一人一人の可能性を開発するようなガイダンスの機能を生かした指導計画を作成し、生徒が豊かな人間関係のなかで有意義な生活を築き、主体的に選択や決定が行えるようにしていくことが必要である。

そこで、この研究は、ガイダンスの機能を生かした指導計画の作成をとおして、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方を明らかにし、中学校における学級活動の指導の改善に役立てようとするものである。

## 研究仮説

ガイダンスの機能を生かす場面や、機能を充実させるための工夫点、学級活動の題材とのかかわりに着目し、3年間の系統性・発展性に配慮した学級活動の指導計画を作成すれば、学校生活への適応と主体的な選択を促す学級活動の指導の進め方の改善に資することができるであろう。

### 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する基本構想

#### 1 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する基本的な考え方

##### (1) 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動を進めることの必要性

現在、中学校教育は、不登校や学校不適応、いじめ、人間関係での問題等といった生徒指導上の問題、学習意欲の喪失や自己喪失、選択教科の拡大に伴う適切な選択の在り方や高校中途退学者等への対応といった学業指導及び進路指導上の問題を抱えている。こうした問題の背景としては、少子化や生活経験の不足のために、人間関係にかかわる社会性や耐性が未熟・未発達であったり、他人とかわるることへの意欲や関心が希薄であったりということが考えられる。また、物質中心的な豊かな社会の中で不自由なく育っているために自立の遅れが見られるようになってきたこと、急速に変化する社会にあって将来に対する見通しが立てにくいために目的意識が低下していること等が考えられる。

このような問題の解決の中心的な場は、教育課程の中では、特別活動、特に学級活動であるといえる。なぜならば、学級活動の特質の一つとして次のような点があるからである。

学校における基礎的な生活の場であり、学校生活への適応や豊かな人間関係の形成、選択教科や進路の選択など、生徒が当面する諸課題への対応や健全な生活態度の育成を図る活動や指導・援助が中心に行われる場である。

(「学習指導要領解説 - 特別活動編 - 」p.26より部分引用)

しかしながら、多くの中学校学級活動の現状は、学校としての指導計画は立てられていても、実際の指導は学級担任に一任されていたり、学校行事や生徒会行事の準備に費やされたりといったことが見受けられる。また、指導計画そのものも、学級活動のねらいを十分に検討して作成されているとは言い難い状況にある。そのため、学校生活や人間関係、学習や進路の選択の問題で悩みを抱えている生徒への対応が十分ではない面があると思われる。

このような中で、学級活動の指導の進め方を工夫した結果、新年度当初に見られた生徒指導上の問題が改善されたり、学年が上がるにつれて選択の関心・意欲が高まったりしている事例も報告されてきている。したがって、学校生活への適応と主体的な選択を促す上では、中学校学級活動の進め方を見直し、工夫・改善することが必要であると考えられる。

(2) 学校生活への適応と主体的な選択についてのとらえ方

適応とは、自らが暮らす生活環境に対して、物的関係や人的関係において積極的にかかわってよりよく順応し、精神的にもうまく合致している状況ととらえる。また、主体的な選択とは、さまざまな問題に出会った時に、自らのもちうる情報や解決法を基に、自らの意志と責任でより適切な選択や決定をすることととらえる。以上のことを踏まえ、「学校生活への適応と主体的な選択」について、本研究では次のようにとらえることとする。

一人一人の生徒が学校や学級の生活に積極的にかかわってよりよく順応し、豊かな人間関係の中で好ましい人間関係を形成し有意義な生活を築くようにすること。  
 学業や進路あるいは自己の生き方等にかかわって、自らの意志と責任でより適切な選択やよりよい自己決定ができるようにすること。  
(「学習指導要領解説 - 総則編 - 」p.90より部分引用)

これらのことは、ガイダンスの機能の充実がねらうところに一致するものである。そして、これらのことにかかわる能力として、人間関係能力、感情統制能力、思考能力、問題解決能力、意志決定能力、情報選択能力の六つを上げることができ、それぞれの能力については次の【表1】のようにとらえることができる

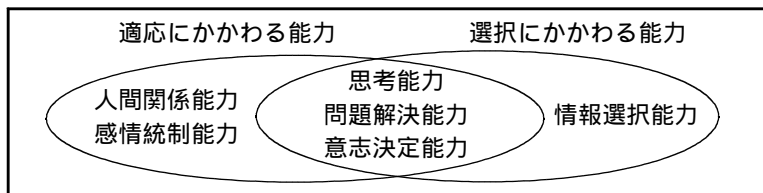
【表1】 学校生活への適応と主体的な選択にかかわる六つの能力

人間関係能力	人とのかかわりを意識的につくる能力
感情統制能力	自分の思い通りにならない状況に陥っても、感情を統制し、冷静に状況を判断する能力
思考能力	他からの指示や知識に頼るのではなく、自分で適切に考えることのできる能力
問題解決能力	自分の保有するさまざまな解決の方法を繰り出して問題を解決する能力
意志決定能力	さまざまな情報の中から、必要なものを選び自信と勇気をもって決定する能力
情報選択能力	情報を選択し、自分の生き方を方向付ける能力

「注」 表中のゴシックは、それぞれの能力の中核となる語句を表す

本研究で最終的に目指す、生徒の「学校生活への適

応と主体的な選択」における「適応にかかわる能力」及び「選択にかかわる能力」と【表1】の六つの能力との関係については、右の【図1】のようにとらえることとする。



【図1】 学校生活への適応と主体的な選択にかかわる六つの能力の関係

2 ガイダンスの機能を生かした指導計画を作成することについての基本的な考え方

(1) ガイダンスの機能を生かした指導計画を作成することの意義

生徒の「学校生活への適応と主体的な選択」を促すため、学級活動はもとより、中学校教育全体の

指導の具体的な改善の方策として学習指導要領に「ガイダンスの機能の充実」が示された。「ガイダンス」は、「案内、指導、手引き、学生指導」といった意味であり、学習指導要領解説の特別活動編（p.82）には右のように規定されている。

生徒のよりよい適応や選択にかかわる、集団場面を中心とする指導・援助であり、生徒一人一人を最大限に開発しようとするもの。

この、ガイダンスの機能を生かす上では、生徒の活動に対して適切な情報提供や案内・説明、体験活動、各種の援助・相談活動などを学校全体として進めることが必要である。ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画を作成し、それに基づいた指導を展開することにより、学校生活への適応や主体的な選択が促されるばかりでなく、生徒が、生涯にわたって自己実現していくことにつながるものとする。

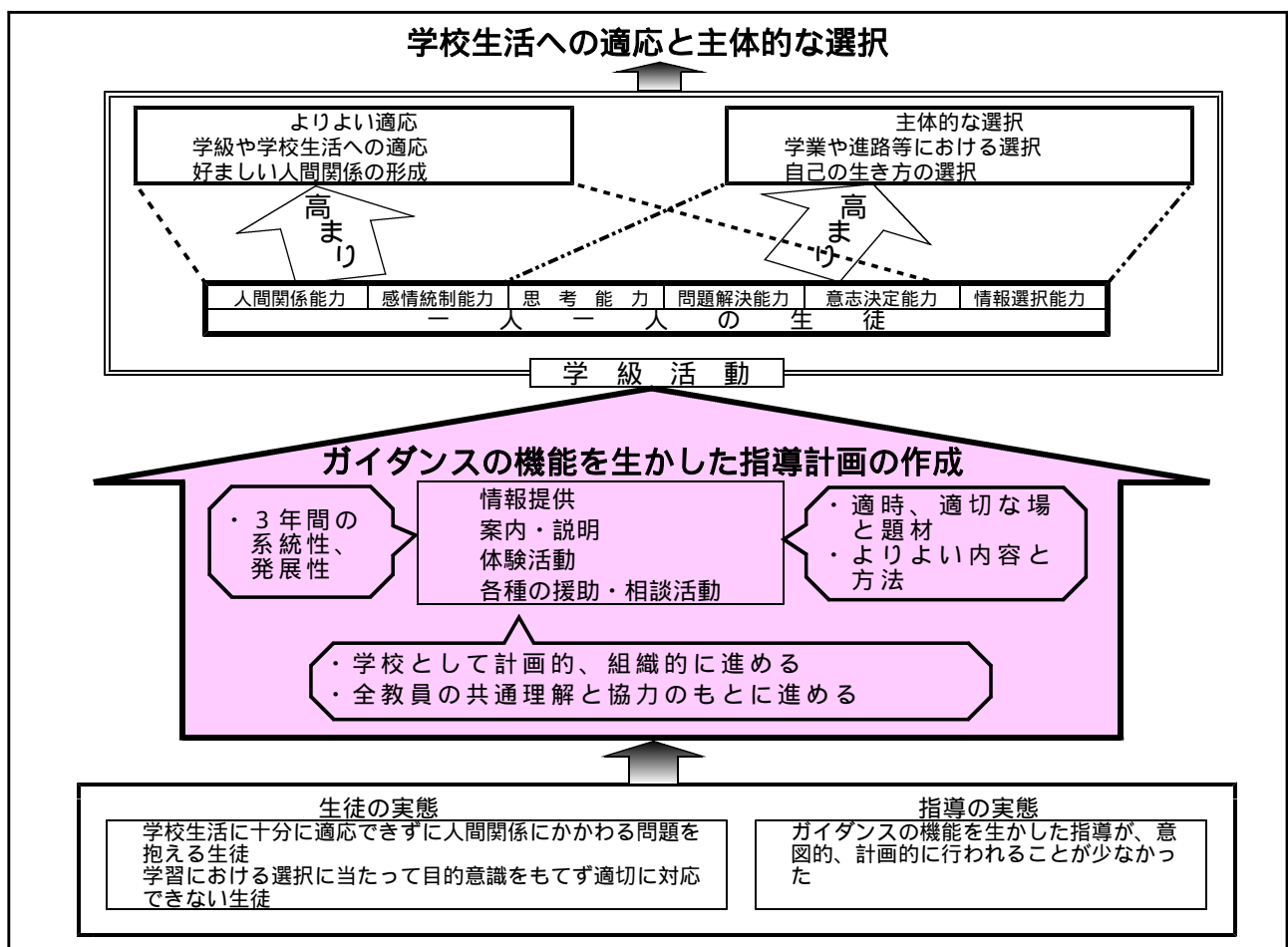
(2) ガイダンスの機能を生かした指導計画作成の視点

ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画は、一つ一つの活動の系統性・発展性に留意し、学校として計画的、組織的に行うように組み立てなければならない。そのための指導計画作成の視点として、右の六点を考える。

- ・学校生活への適応と主体的な選択を促すためにガイダンスの機能を生かす場面
- ・学習指導要領の学級活動の内容例とガイダンスの機能を生かす題材とのかかわり
- ・ガイダンスの機能を生かす題材の系統性・発展性
- ・ガイダンスの機能を充実させるための工夫点（指導内容や指導方法等）
- ・全教師の協力のもとでの展開
- ・3年間を見通した展開

3 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する基本構想図

これまで述べてきたことを踏まえて、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方についての基本構想図を、次の【図2】のように作成した。



【図2】 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する基本構想図

# 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する推進試案

## 1 推進試案の作成

### (1) 推進試案の作成に当たり基本としておさえること

学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動を進めることは、ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画を作成することから始まる。そしてその指導計画に基づいた指導をとおして、最終的には生徒一人一人の可能性の開発が図られなければならないと考える。

そこで、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する推進試案の作成に当たっては、まず、右の四つの点の達成を目指して学校全体の計画的・組織的な取組によってガイダンスの機能を充実させるように進めることが重要である。

- ・学校や学級の生活によりよく適応させること
- ・諸活動に対して主体的な活動意欲をもたせること
- ・自己実現に必要とされる資質や能力、態度を身に付けるようにすること
- ・共に学び、活動することをとおして、存在感や自己実現の喜びを感じることでできる生活を築かせ、よりよい発達を促すようにすること

また、右の二つの点についても、常に念頭に置きながら進めることが大切である。

- ・3年間の系統性・発展性を踏まえた計画を作成する。
- ・全教師の共通理解と協力のもとに進める。

### (2) 推進試案の作成にかかわるガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画の見直しの視点と作成の仕方

#### ア 現在使用している学級活動の指導計画の見直しと修正

ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画の作成に当たっては、まず、現在使用している学級活動の指導計画を、生徒や地域の実態等、学校の特質を踏まえつつ次の視点から見直し、必要に応じて修正する。この点に関しては、下のイと次頁ウとも並行して進める必要がある。

学校行事や生徒会行事等との整合性が図られているか。適時性は図られているか。  
ガイダンスの機能の充実のために指導すべき題材はもれなく位置付いているか。その系統性や適時性はどうか。

#### イ ガイダンスの機能を生かす場面の検討

現在の中学校教育における生徒指導上、学業指導及び進路指導上の問題点から考えれば、【表2】のような場面で、ガイダンスの機能の充実を図る工夫を一層進めなければならない。

【表2】ガイダンスの機能を生かす場面

生かす場面		特徴的な事項	どのような配慮や工夫が必要か
生徒が学校生活やそこでの人間関係などによりよく適応する指導において	入学時や新学期開始時期	新生活への期待の一方で環境の変化への不安が交錯し、生徒の精神状態が不安定になる傾向がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できる限り不安を取り除き、新生活への夢や希望を膨らませるようにする</li> <li>・教師と生徒及び生徒相互の好ましい人間関係が生まれるように配慮する</li> <li>・生徒自身が学校や学級における諸活動や集団の意義、内容などについて十分に理解し、自発的によりよい生活に取り組むことができるように必要に応じて十分な指導時間を確保する</li> </ul>
	新たな学習や各種の学習活動の開始時期	学習や諸活動に意欲的に取り組むことができない要因としては、目的を明確にすることができなかった場合や、やり方が分からない場合、見通しがもてない場合、人間関係に不安がある場合等が考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな学習活動や諸活動が始まる前の段階では、左記の点に配慮して事前指導を十分に行い、生徒がこれから始まる学習活動や諸活動に、意欲をもって積極的かつ主体的に取り組むことができるようにする</li> <li>・学習指導や学習活動及び諸活動で使用した資料を整理し、適宜修正を加えて引き継いでいく</li> </ul>
選択教科や進路等の選択の指導において	選択教科等に関して	生徒各自が、必ずしも自己の興味・関心や意志に基づいて選択しているとは言い難く、結果的に自ら選択した選択教科の学習に意欲的でない面もある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動のねらいや内容及び方法、よりよい選択の仕方や考え方等についての理解を図り、生徒の学習意欲を喚起して主体的に学習に取り組むことができるよう工夫する</li> <li>・指導の時間を十分に確保するため、学級活動の時間の他に、選択教科等の時間の一部を充てるなどの工夫をする</li> </ul>
	進路の選択に関して	進路の問題は、絶えず選択の連続であり、しかも中学校卒業時のみならず生涯にわたるものでもある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人が自己理解を深め、自己の将来の生き方を考え卒業後の進路を主体的に選択し、積極的に自己実現を図っていくことができるような指導の工夫をする</li> <li>・進路指導にかかわるガイダンスの場や機会が従来のままで十分であるかどうか、何についてのガイダンスを、いつ、どのような形で、どれだけ行っていくかを吟味する</li> </ul>

ウ 学習指導要領に示された学級活動の活動内容例とガイダンスの機能を生かす題材とのかかわり

学習指導要領には、学級活動の活動内容が三つ示され、それぞれについてより具体的な活動内容例が示されている。これらの学級活動の活動内容例とガイダンスの機能を生かす題材とのかかわりについては、「学習指導要領解説 - 特別活動編 - 」と先行研究を基にして、【表3】のように考えた。

エ ガイダンスの機能を充実させるための工夫点

最後に、ガイダンスの機能を充実させるための工夫として、【表4】の五つの観点に沿って学級活動の指導計画案（3年間の指導計画、各学年の指導計画、単位時間の指導計画）や個々の学級活動を再度見直し、ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画を完成させる。

【表3】 学習指導要領に示された学級活動の活動内容例とガイダンスの機能を生かす題材とのかかわり

学級活動の活動内容	学級活動の活動内容例
学級や学校の生活の充実と向上に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級や学校における生活上の諸問題の解決</li> <li>・学級内の組織づくりや仕事の分担処理</li> <li>・学校における多様な集団の生活の向上</li> </ul>
個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期の不安や悩みとその解決</li> <li>・自己及び他者の個性の理解と尊重</li> <li>・社会の一員としての自覚と責任</li> <li>・男女相互の理解と協力</li> <li>・望ましい人間関係の確立</li> <li>・ボランティア活動の意義の理解</li> <li>・心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成</li> <li>・性的な発達への適応</li> <li>・学校給食と望ましい食生活の形成</li> </ul>
学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶことの意義の理解</li> <li>・自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用</li> <li>・選択教科等の適切な選択</li> <li>・進路適性の吟味と進路情報の活用</li> <li>・望ましい職業観・労働観の形成</li> <li>・主体的な進路の選択と将来設計</li> </ul>

「注」 ゴシックの活動内容例が、ガイダンスの機能を生かせる題材

【表4】 ガイダンスの機能を充実させるための工夫点

ガイダンスの機能を充実させるための工夫点	主にどの計画レベルで検討するか
ア ねらいの明確化	単位時間の計画レベル
イ 適時、適切な場での活動（3年間の中での位置付け）	3年間の計画レベル
ウ よりよい内容（適切な内容）	3年間の計画レベル
エ 効果的な方法（指導方法や活動形態、他の教育活動との連携）	各学年の計画レベル
オ 学校のもつ教育力の発揮（全教員、上級生、卒業生、地域の人材の活用）	単位時間の計画レベル

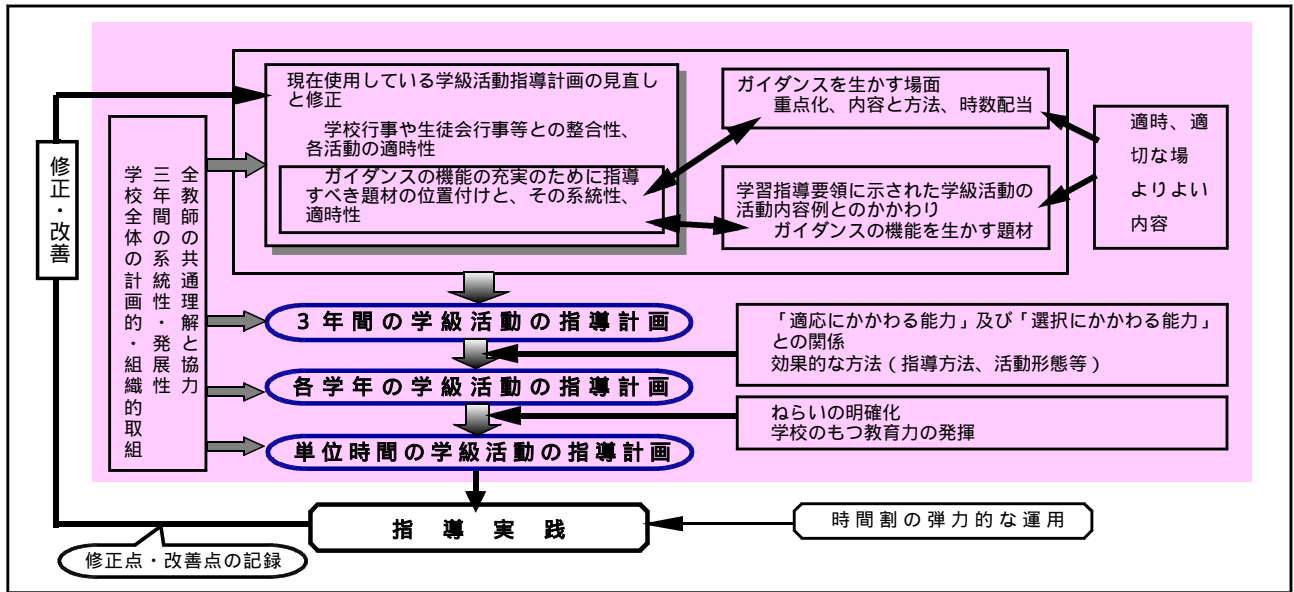
(3) ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画に基づく指導実践とその後の指導計画の修正  
作成した学級活動の指導計画に基づいて指導実践を行う際、時間割を弾力的に運用し、実際の指導がより適時に適切な形で行われるように工夫することで一層の指導効果が期待できると考える。つまり、学級活動の時間を、各々の週の中でも適切な日時に設定し、学校全体としての指導体制を確立して実践するということである。

指導実践後は、指導計画を再検討し、修正を加えていく。そのために、毎時間の指導実践後に指導計画に修正すべき点や改善すべき点を記録しておくことにより、具体的で確かな修正が可能になると考える。

このような指導実践と指導計画の修正のサイクルを着実に行うことによって、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動を進めることができるものと考えられる。

2 推進試案

これまで述べてきたことを踏まえて、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する推進試案を、次頁の【図3】のようにまとめた。



【図3】 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する推進試案

ガイダンスの機能を生かした指導計画の作成

1 ガイダンスの機能を生かした3年間の学級活動の指導計画

「ガイダンスの機能を生かした3年間の学級活動の指導計画案」については、推進試案に基づいて、次の【表5】のように作成した。この表では、ガイダンスの機能を生かして「学校生活への適応と主体的な選択を促す」学級活動の題材に絞って、題材配列一覧表の形で示してある。

【表5】 ガイダンスの機能を生かした3年間の学級活動の指導計画案

月	主な行事	第1学年		第2学年		第3学年	
		題材名	適応・選択	題材名	適応・選択	題材名	適応・選択
4	・始業式 ・入学式 ・生徒会オリエンテーション ・3年修学旅行 ・応援歌練習 ・体育祭 ・生徒総会 ・中間テスト	中学生になって 中学校とは何か 学級目標を決めよう 学級組織作り 選択教科を選ぼう 体育祭に向けて		2年生になって 学級目標を決めよう 学級組織作り 選択教科で自分を伸ばそう 体育祭に向けて		3年生になって 学級目標を決めよう 修学旅行の準備 学級組織作り 自分で選ぶ選択教科 体育祭に向けて	
5		望ましい学習方法 中学生の学習		自分を高める学習		3年生の学習	
6	・地区中総体 ・期末テスト	私たちの将来の希望		人はなぜ働くのか 人はなぜ学ぶのか		何のために学ぶのか 学級の充実と改善 先輩の姿に学ぶ	
7	・県中総体 ・期末面談 ・終業式	1学期の反省 係班の活動反省 夏休みの生活設計		1学期の反省 係班の活動反省 夏休みの生活設計		1学期の反省 生き方について考える 夏休みの生活設計	
8	・始業式 ・地区陸上大会 ・地区新人戦 ・中間テスト	夏休みの収穫 2学期の計画		夏休みの収穫 2学期の計画		夏休みの収穫 2学期の計画	
9		21 働く人々のすがた 23 働く人々の仕事と考え1		ボランティア活動 職業の世界 職業の内容の調査1		21 進路先の調査	
10	・生徒会立会演説会 ・県新人戦 ・文化祭	24 働く人々の仕事と考え2 25 文化祭の取り組み 26		22 職業の内容の調査2 23 文化祭の取り組み 24		22 学習の課題や悩みの解決 23 文化祭の取り組み 24	
11	・県新人戦 ・（総合「発表会」） ・期末テスト	27 人と個性 28 自分の特色、友達のよさ 29		25 学ぶ制度の調査 26 中学校卒業後の学ぶ道 27 自分の力を高める		25 26 進路を最終決定する 27 自分の道を切り開く	
12	・学期反省 ・期末面談 ・終業式 ・始業式	30 健康で安全な生活 31 2学期の反省 32 冬休みの生活設計 33 冬休みの反省と新年の決意 34 悩みとその解決		28 29 2学期の反省 30 冬休みの生活設計 31 冬休みの反省と新年の決意 32 自分の適性		28 29 2学期の反省 30 冬休みの生活設計 31 冬休みの反省と新年の決意 32 進路の手続き	
1		35		33 修学旅行の準備 34 適性を生かす進路を選ぼう		33 34 勇気を出して自分の道希望にあふれて	
2	・期末テスト ・生徒総会	36 進路と将来設計 37 進路計画の必要性 38 進路計画の立て方 39 学年の反省 40 新学年への抱負		35 進路計画の立案1 36 進路計画の立案2 37 学年の反省 38 上級学年への心構え		36 中学校生活のまとめ 37 上級学校への心構え 38	

注1 コシックで 印のものは、適応や選択にかかわりの深い題材を、 印のものは、適応や選択にかかわりのある題材を表す  
注2 題材名の前の丸囲み数字は、指導の順番であり、丸囲み数字一つで1単位時間を表す



【表5】における「題材名」については、研究協力校の学級活動年間計画表及び日本進路指導協会編「中学生生活と進路」を基にしている。

この表に示したように、4月には各学年ともに「学校生活への適応と主体的な選択を促す」学級活動の題材を重点的に位置付けた。特に第1学年については、他学年よりも2単位時間多く時数配当した。これは、中学校生活や新学年が始まる4月が、「学校生活への適応」の上で重要な時期だからであり、特に第1学年においてガイダンスの機能を生かした指導の充実が求められているからである。

また、年間指導時数を、第1学年で40単位時間、第2・3学年でそれぞれ38単位時間とした。35単位時間を上回る時数分については、「選択教科等に充てる授業時数」等を充てることとして計画した。

## 2 ガイダンスの機能を生かした各学年の学級活動の指導計画

「ガイダンスの機能を生かした各学年の学級活動の指導計画案」については、前頁【表5】で示した3年間の指導計画表に基づき、各学年ごとに、「学級活動の題材」と「指導のねらい」・「指導の方法」・「指導の留意点」との関係、「学校生活への適応と主体的な選択にかかわる六つの能力」との関係が付加して作成した。主要資料は、日本進路指導協会編「中学生生活と進路 指導書」(1~3年)である。72、73頁の【図4】に、第1学年の「ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画案」を示す。(第2学年と第3学年の指導計画案は、紙面の都合で省略する。)

ところで、ガイダンスの機能を生かした指導については、学級活動のみならず、全教育活動を通じて充実を図らなければならない。特に、各学年の年度初めは、生徒が学級や学校の生活及びそこで人間関係などによりよく適応するように、十分な時間を確保しながら学校全体で意図的、計画的に指導することが必要である。

そこで、この時期の学級活動をはじめとする全教育活動の進め方について、69頁の【表4】に示したガイダンスの機能を充実させるための五つの工夫点に沿って例を示すと、次のようになる。

### ア ねらいの明確化

- ・学校や学級生活への適応、人間関係のよりよい適応を図る。

### イ 適時、適切な場での活動

- ・学級活動や学校行事及び生徒会行事等の時間だけでなく、朝の会・帰りの会でも適時指導する。
- ・特に、入学期は、入学後2週間程度の全教育活動が相互につながりをもって有機的に組織され、機能するように配慮する。

### ウとエ よりよい内容や効果的な方法

- ・学級での自己紹介や生徒会の対面式等でゲーム形式の活動を取り入れ、緊張感を和らげる。
- ・教師の一方向的な説明だけでなく、生徒によるロールプレイングを行ったり、グループワークを行ったりしながら、生徒同士が触れ合うことのできる機会を多くもつ。

### オ 学校のもつ教育力の発揮

- ・生徒会によるオリエンテーション(生徒会活動全般)を工夫したり、生徒会誌を活用した学校生活の紹介を行う。
- ・縦割り学級での教え合いを行う。(朝と帰りの短学活の進め方、学級掲示や清掃の仕方等)
- ・上級生が、新入生に対して校舎案内や利用の仕方等の説明を行う。

このような考え方に立って、第1学年の年度初めのオリエンテーション期間における「ガイダンスの機能を生かした学級活動」と他の教育活動との関連を図った指導展開の具体案を、74頁の【図5】のように作成した。(第2学年と第3学年の指導展開の具体案は、紙面の都合で省略する。)

月	主な行事	第1学年		題材グループ名	指導のねらい 指導の方法 指導の留意点
		題材名	適応 選択		
4	・始業式 ・入学式 ・生徒会オリエンテーション ・3年修学旅行 ・応援歌練習 ・体育祭	中学生になって 中学校とは何か 学級目標を決めよう 学級組織作り 選択教科を選ぼう 体育祭に向けて		中学生の出発 (含：選択教科)  私たちの学級	中学生活に少しでも早く慣れさせ、希望と意欲をもって毎日の生活に臨む心構えと決意をもたせる。オリエンテーション計画による指導。新しい生活への不安を取り除き、学級への所属感をもって学校生活への意欲を高める。中学校の活動の組織や内容を理解させ、進んで参加しようとする態度を身に付けさせる。  生徒たちの主体性と自主性を培い、充実した学校生活を送らせる。学級経営の基盤となる学級組織の在り方を考え、活発に活動できる集団を作る。グループや学級全体での話し合い。個々の生徒が思いやりと責任をもって活動できる雰囲気を作る。また、生徒の孤立や排斥行為がないように留意する。
5	・生徒総会 ・中間テスト	望ましい学習方法  中学生の学習		中学校の学習と 将来の生き方	将来の展望をもち、学ぶことの意義や目的を考えさせることで、学習意欲を高め、望ましい学習習慣を身に付けさせる。将来設計をとおして、進路意識を高めさせる。先輩の学習計画の紹介や、教科担任との連携。学ぶことが将来の「生き方」に深くかかわることに気付かせる。将来への夢や希望をもたせ、今後の生活の在り方を考えさせる。
6	・地区中総体 ・期末テスト	私たちの将来の希望			
7	・県中総体 ・期末面談 ・終業式	一学期の反省 係班の活動反省 夏休みの生活設計			
8	・始業式 ・地区陸上大会	夏休みの収穫 二期の計画		学級生活のなかで	新学期に当たり、学校生活全般を振り返り、よりよい適応を図りながら、望ましい人間関係を確立させる。実態アンケートを基にした話し合い。集団生活が人間形成に果たす役割の重要性を理解させる。
9	・地区新人戦 ・中間テスト	21 働く人々のすがた 22 働く人々の仕事と考 え1		働く人びとに 学ぶ	身近に働く人びとの姿や考え方に触れることにより、職業選択能力や職業観・勤労観を育成する。ロールプレイング、職場訪問学習の事前学習。身近に働く人びとの様子や考え方などに注目させる。
10	・生徒会立会演説会 ・県新人戦 ・文化祭	24 働く人々の仕事と考 え2 25 文化祭の取り組み 26			
11	・県新人戦 ・（総合「発表会」） ・期末テスト	27 人と個性 28 自分の特色、友達の よさ 29		自分を知ろう	進路指導の自己理解の導入として、「自分を知る」ことの必要性や方法、内容等を理解させる。アンケート、保護者の声を基にした話し合い。互いの個性を認め合う中で自己のよさを理解させる。自分の特色を伸ばして将来の職業に生かして行こうとする意欲と態度を身に付けさせる。
12	・学期反省 ・期末面談 ・終業式	30 健康で安全な生活 31 二期の反省 32 冬休みの生活設計		自主的な行動を しよう	心身の大きな変化に伴って生ずる不安や自己嫌悪などの問題のとらえ方や対処法を考えさせる。不安や悩みのアンケートを基にした話し合い。自分の心身の成長に着目させ、集団の一員としての心構えを考えさせ、自己を積極的に生かしていく意欲や態度を育てる。
1	・始業式	33 冬休みの反省と新年 の決意 34 悩みとその解決		進路計画を立 てよう	将来に対する興味や憧れの希望を、より具体的なものにするため、進路希望を再認識させ、より計画的な実現を目指す。ライフプランの作成。将来の進路希望実現に向けて、適切な進路計画が必要であり、適宜修正・変更していくことが大事である。具体的な進路計画の立て方を理解させ、実際に立ててみる。
2	・期末テスト ・生徒総会	35 36 進路と将来設計 37 進路計画の必要性		1年間のまとめ と2年生への 準備	1年間を反省させ、新たな気持ちで2年生の学校生活を迎える心構えをもたせる。グループや学級全体での話し合い。個人の反省、学級、生徒会、学校行事、部活動の参加の反省の上に、2年生に向けて具体的な目標や決意をもたせる。
3	・公立高校入試 ・修了式 ・卒業式	38 進路計画の立て方 39 学年の反省 40 新学年への抱負			

「注1」 印は、適応や選択にかかわりの深い題材、 印は、適応や選択にかかわりのある題材

「注2」 網掛けは、適応にかかわる

【図4】 第1学年の「ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画案」

適 応 に か か わ る 能 力			選 択 に か か わ る 能 力		
人間関係能力	感情統制能力	思考能力	問題解決能力	意志決定能力	情報選択能力
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分から進んでコミュニケーションをとる。</li> <li>級友への理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生活や新しい友だちに対する不安を取り除く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生活への希望や抱負をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団の中で楽しい学校生活を送るための方策（相談など）を知り、実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校の学習や活動の特色を知り、意欲的に取り組む。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの存在や個性を尊重して組織作りを行う。</li> <li>明るく楽しい学級となるよう、思いやりと責任をもって活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の希望とは異なる役割であっても、集団の一員としての立場を自覚し、行動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>こんな学級にしたいという願いや考えをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>よりよい学級集団の在り方を考え、話し合いで目標や組織を決定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分にふさわしい役割に進んで取り組み、責任を果たす。</li> <li>みんなの願いを踏まえて学級目標を決める。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの自己の学習生活を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習計画や学習方法について自ら工夫していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の夢や希望をもち、意欲的に学ぼうという志をもつ。</li> <li>苦手教科の克服や日常の学習を継続するよう努力をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な進路及び生涯学習の場や機会を知り、3年間の進路の見直しをもつ。</li> <li>自己の学習の反省や級友たちの反省から学習の工夫を知り、意欲を高める。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分と級友との交わり方を見直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新学期に当たっての不安を取り除く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期の学級生活を振り返り、よかった点、悪かった点を明確にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級内の諸問題について進んで話し合いに参加する。</li> <li>学級生活をよりよくするための工夫や計画について考え、それに基づいて実践する。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>働くことの疑似体験をとおして、働く人びとの考えや思いを推察する。</li> <li>何のために働いているのか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>働く人びとの職業観や勤労観を参考に、自分の希望する職業をとらえ直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>働く人びとの姿は職業によって多様であることを知り、職業に対する視野を広げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業選択能力や自らの職業観・勤労観の基礎を築く。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの個性を認め合う中で、自分のよさを理解し、伸ばしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分を客観的・総合的にとらえ、自己有用感（肯定感）をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の希望する職業にはどんな能力や適性が求められるか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の個性を生かすために、日常生活がどうあればよいか考え、改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の特性を将来の職業に生かして行こうとする気持ちをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分を知るための内容や方法を理解することで、特性と進路の関係に気付く。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>級友同士で、互いに理解し、敬愛し、励まし合う中で、自分を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>心身の発達の不均衡からくる不安や悩みに負けず、自己を肯定的にとらえ、積極的に生かしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>心身の発達に伴う行動面での変化について見つめ直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>心身の発達の不均衡からくる不安や悩みは、誰もが経験する自我の目覚めであることを知り、積極的に解決していく。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の進路希望を実現させるための進路計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路計画を、必要に応じて修正・変更する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己を生かすために進路の希望に沿って将来設計を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の進路希望を実現させるための計画の立て方を理解する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>不本意だったことも客観的に振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人、学級、学校生活の各レベルで1年間を振り返り2年生に向けての心構えを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年生に向けて、具体的に、どこをどう改善するか考え、新たな決意をもって春休みを迎える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まわりの人のアドバイスを受けながら、自己実現を図る。</li> </ul>	

要素が強い題材グループ

「注3」点線の枠囲みは、ガイダンスの機能を生かすことが他よりも弱い題材グループ

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目	第6日目	第7日目	
期		提出物確認	先生や仮の係が進行と連絡をする			正式の係が進行と連絡をする		
1	・入学式での代表あいさつへの生徒への指導 ・体験入学の際に、入学式練習を行う。	<b>学級活動①</b> 中学生になって	教科①	教科②	教科③	教科④	道徳	
2		<b>学級活動②</b> 中学校の生活 1 生徒会 学級など	教科④	教科⑤	教科⑥	教科⑦	教科⑧	
3		対面式 ・中学校生活のしおり ・生徒会誌 ・生徒手帳	交通安全教室	教科⑥	教科⑦	教科⑧	教科⑨	教科⑩
4				教科⑧	教科⑨	教科⑩	教科⑪	
校		仮の班ごとに楽しく昼食をとろう				正式の班で昼食の準備をしよう		
種		生徒同士の触れ合いの機会を多くもつよう、配慮する				学級の友達と交流を深めよう		
		たくさんの人と話をしよう／名前を覚えよう						
5	入学式	<b>学級活動③</b> 中学校の生活 2 校舎見学 保健室利用	身体測定	<b>学級活動④</b> 学級目標作り	<b>学級活動⑤</b> 学級組織作り 1	オリエンテーション 総合的な学習の時間	<b>学級活動⑥</b> 選択教科の選択	
6		上級生の清掃や短学活、教室掲示を見学する		具体的な価値観を評価する	<b>学級活動⑥</b> 学級組織作り 2		2年生の先輩の体験談を生かす	
期	<b>担任方針あいさつ</b> ・諸連絡	3年生の清掃見学 2年生の短学活見学	3年生の短学活見学	仮の班で清掃に取り組む		正式の班で清掃活動に取り組む		
期				仮の係で進行や諸連絡をする		正式の係が進行と連絡を行う		
連絡事項等	<b>自己紹介カード</b> ・生徒手帳配付 <b>「こんな学級がいい」を宿題に</b>		・「こんな学級がいい」のアンケート結果を配付 ・学級目標の家を考へてくる	・自分がやってみたい役職を考へておく	放課後に学年生徒会の組織を確立	中央委員会 学年執行部会		

【注1】 図中の矢印は、各活動のつながり・発展の方向を示す

【注2】 学級活動の丸囲み数字は、【表5】に対応する

【図5】 第1学年の年度初めのオリエンテーション期間における「ガイダンスの機能を生かした学級活動」と他の教育活動との関連を図った指導展開の具体案

## 研究のまとめ

### 1 研究の成果

- (1) 学校生活への適応と主体的な選択にかかわる六つの能力を明らかにすることをとおして、ガイダンスの機能を生かした指導計画を作成することが、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動を進める上で重要であるという考え方に立って、基本構想の立案並びに推進試案の作成を行うことができた。
- (2) ガイダンスの機能を生かす場面や、機能を充実させるための工夫点、学級活動の題材とのかかわりに着目し、3年間の系統性・発展性に配慮した指導計画案を作成することができた。

### 2 今後の課題

次年度は「単位時間の学級活動の指導計画案」を作成し、それに基づいた指導実践とその分析・考察を行い、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する研究をまとめる。

### 【参考文献】

森嶋昭伸・鹿嶋研之助編著、「新中学校教育課程講座 特別活動」、ぎょうせい、2000